

【2022年卒 就職活動TOPIC】 就職活動費用は2年連続減少。コロナ禍前と比べ約4割減 一方で説明会・選考など学生の参加数は増加

株式会社リクルート（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：北村 吉弘）のよりよい就職・採用のあり方を追究するための研究機関・就職みらい研究所（所長：増本 全）は、就職みらい研究所学生調査モニターの大学生・大学院生を対象に「就職プロセス調査」を実施いたしました。このたび調査結果がまとまりましたので、一部を抜粋してご報告申し上げます。

オンラインの活用により費用や移動時間が軽減され、企業との接点が増える



所長 増本 全

今回は学生が就職活動に使用した金額についてレポートします。2022年卒学生が6月12日時点で就職活動に使用した金額は、平均して72,034円でした。これは、2021年卒の88,923円と比べて約1万6千円少なくなっています。またコロナ禍前の2020年卒の128,890円に比べて約4割減少しました。各項目別に見ると、最も減少したのは「宿泊費」で21年卒と比べて9,154円少なくなりました。新型コロナウイルス感染症の影響によりオンラインでの就職活動が増えたことが原因と考えられます。環境の変化により学生にとっては不安なことも多かったと思いますが、金銭面では例年と比べれば負担が少なかったことがうかがえます。加えて、就職活動にかける時間はこの3年を見ても大きな変化はなく、企業との接点が費用をかけずに効率化されていると考えられます。学生の活動実施状況を見ていくと、個別企業の説明会では平均19.7社と21年卒と比べて5.1社増加、面接も平均10.9社と21年卒と比べて1.5社増加しており、費用負担が少なくなったのにもかかわらず、より多くの企業の選考に参加している様子がうかがえます。学生のコメントにも「移動時間とお金がかからないので、選考を受けるか迷っている企業にも積極的に挑戦することが出来た」など、就職活動のオンライン化に伴う費用負担の減少により多くの企業の選考に参加したい、できたという声が見られました。

就職活動全体にかかった平均金額の比較

大学生_全体（就職志望者のうち就職活動に「1円」以上使用した学生/数値回答） ※大学院生除く（円）

		就職活動全体にかかった平均金額			差 (22年卒-21年卒)
		2022年卒 (2021年6月12日時点)	2021年卒 (2020年6月12日時点)	2020年卒 (2019年7月1日時点)	
全国		72,034	88,923	128,890	-16,889
地域別	北海道・東北	92,245	94,468	140,861	-2,223
	関東	65,193	81,833	117,374	-16,640
	中部	76,508	83,776	132,900	-7,268
	近畿	62,579	97,263	131,201	-34,684
	中国・四国	101,491	116,654	139,967	-15,163
	九州	78,368	92,717	156,989	-14,349

本件に関する
お問合せ先

<https://www.recruit.co.jp/support/form/>

I. 就職活動費用の内訳

就職活動費用の減少は、「交通費」「宿泊費」が影響

- ・項目別で平均金額が前年に比べ大きく減少したのは、「宿泊費」と「交通費」。
- ・「宿泊費」は使用率が約4割減少していることから、宿泊を伴う移動の機会自体がなくなった学生が増加したことがうかがえる。
- ・「交通費」の使用率は若干減少しているものの引き続き8割を超えていることから、移動の回数や費用のかさむ遠方への移動の機会が減少したことがうかがえる。

就職活動費用の内訳

大学生_全体（平均金額の集計対象：各項目で「1円」以上を使用した学生 / 数値回答）※大学院生除く

（使用率：「1円」以上を使用した学生 / それぞれ単一回答）

※ 項目ごとの平均額のため、各項目の合計は総額とは一致しない

（平均金額：円 使用率：% 使用率の差：ポイント）

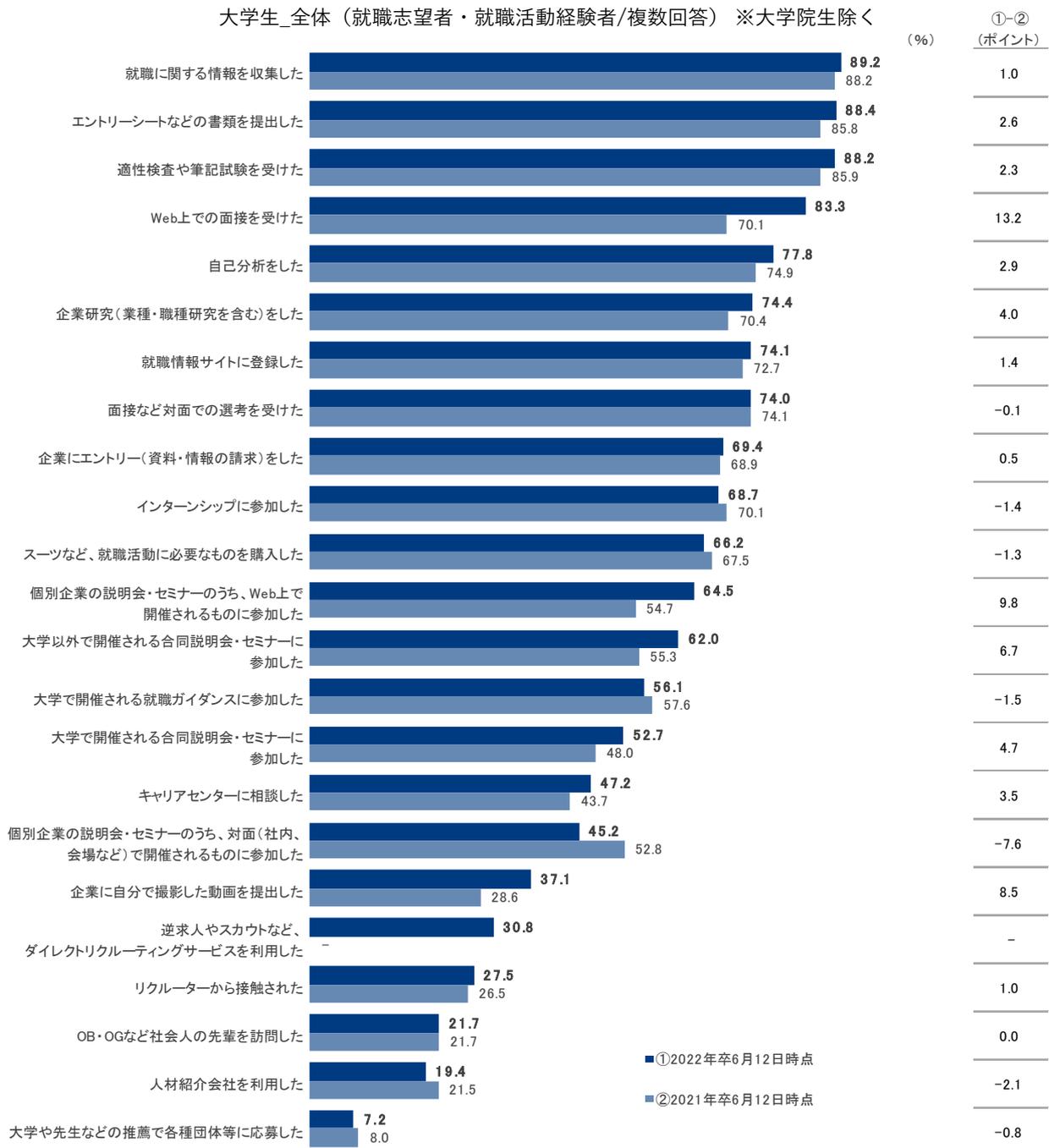
		交通費	被服費	宿泊費	飲食費	書籍費	公務員試験対策費	スキルアップ費用
n	22年卒	1218	1166	118	666	833	146	326
	21年卒	699	694	112	519	475	86	224
	20年卒	1367	1205	286	1215	878	152	400
平均金額	22年卒	17,420	31,462	13,313	6,104	5,193	116,455	21,806
	21年卒	25,567	34,360	22,467	6,957	4,913	93,204	17,398
	20年卒	49,466	36,869	27,059	12,488	5,697	105,195	23,847
	22年卒-21年卒	-8,147	-2,898	-9,154	-852	280	23,251	4,408
使用率	22年卒	85.3	81.7	8.3	46.7	58.4	10.2	22.9
	21年卒	89.4	88.7	14.3	66.3	60.7	11.0	28.7
	20年卒	98.2	86.6	20.5	87.3	63.1	10.9	28.7
	22年卒-21年卒	-4.0	-7.1	-6.0	-19.7	-2.4	-0.8	-5.8

II.6月12日までの各活動実施状況（実施率）

Web上での面接・個別説明会の実施率が前年に比べ増加

- ・前年と比べ実施率の差が大きい活動は、「Web上での面接を受けた」（+13.2ポイント）、「個別企業の説明会・セミナーのうち、Web上で開催されるものに参加した」（+9.8ポイント）、「企業に自分で撮影した動画を提出した」（+8.5ポイント）、「個別企業の説明会・セミナーのうち、対面（社内、会場など）で開催されるものに参加した」（-7.6ポイント）だった。
- ・「Web上での面接を受けた」の実施率は増加したが、「面接など対面での選考を受けた」の実施率は前年とほぼ変わらないことから、面接においてWebと対面の併用が進んでいることがうかがえる。

6月12日までの各活動実施状況（実施率）



※「2022年卒6月12日時点」の降順で並び替え。

※「その他」を除く。

※「逆求人やスカウトなど、ダイレクトリクルーティングサービスを利用した」は、2022年卒3月より聴取。

III. 6月12日までの各活動実施状況（平均社数）

Web上での個別説明会・面接に参加した平均社数が前年に比べ増加

・活動実施の平均値を見ると、地域による差はあるものの、Web上での個別説明会・面接に参加した平均社数が前年と比較し増加している。

・Web・対面の形式に限らず、個別説明会・面接への参加社数について見ると、個別説明会に参加した平均社数が前年に比べ+5.1社、面接に参加した平均社数が+1.5社となっており、Web上での個別説明会・面接に参加した社数が増えたことで、企業との接点が前年に比べて増えていることがうかがえる。

6月12日までのWeb・対面別各活動実施の平均社数（地域別）

大学生_全体（就職志望者・各活動経験者/数値回答）※大学院生除く

各活動実施量の平均値(社)	2022年卒									
	全体		関東		中部		近畿		その他	
個別企業の説明会・セミナーのうち、対面(社内、会場など)で開催されるものに参加した	4.5	(-2.3)	4.7	(-2.4)	4.0	(-3.2)	4.4	(-3.3)	4.6	(-0.1)
個別企業の説明会・セミナーのうち、Web上で開催されるものに参加した	17.3	(7.7)	20.1	(8.9)	13.0	(5.2)	18.0	(9.5)	13.6	(5.3)
面接など対面での選考を受けた	3.5	(-1.4)	3.8	(-1.8)	3.3	(-2.2)	3.4	(-1.4)	3.3	(0.5)
Web上での面接を受けた	8.4	(2.2)	9.5	(2.7)	6.4	(0.0)	9.3	(3.4)	6.9	(1.8)

※（）内は2021年卒との差

6月12日までの個別企業説明会・面接参加の平均社数（地域別）

大学生_全体（就職志望者・各活動経験者/数値回答）※大学院生除く

参加社数(Web・対面)の平均値(社)	2022年卒									
	全体		関東		中部		近畿		その他	
個別企業説明会	19.7	(5.1)	22.9	(6.7)	15.0	(1.4)	20.7	(6.2)	15.7	(4.0)
面接	10.9	(1.5)	12.4	(2.0)	8.4	(-1.6)	11.6	(2.3)	9.0	(2.6)

※参加社数についてはWeb・対面の形式にかかわらず個別企業説明会・面接に参加した社数について各活動実施者ベースで算出
※（）内は2021年卒との差

(参考) 6月12日までの個別企業説明会・面接参加の活動実施状況（実施率）

大学生_全体（就職志望者・就職活動経験者/複数回答）※大学院生除く

活動実施率(%)	2022年卒									
	全体		関東		中部		近畿		その他	
個別企業説明会	66.8%	(6.4)	67.9%	(6.9)	66.1%	(16.0)	71.7%	(3.6)	61.0%	(0.7)
面接	88.8%	(3.5)	91.4%	(3.3)	87.4%	(3.9)	88.0%	(0.1)	85.4%	(7.5)

※活動実施率についてはWeb・対面の形式にかかわらず個別企業説明会・面接に参加した割合を算出
※（）内は2021年卒との差

IV. Web選考の良かったと思う点

Web選考によって、就活費用の削減に加えて選択肢の広がりもうかがえる

- ・ Web選考の良かったと思う点について聞いたところ、交通費・宿泊費などの費用や移動時間がかからない点についての回答が見られた。
- ・ また、費用がかからないことによって多くの企業の選考に参加できた点を良かった点としてあげる回答も見られた。
- ・ Web選考を経験した学生が増えたことによって、より多くの学生が企業の所在地にかかわらず多くの選択肢から就職先を検討できるようになった様子がうかがえる。

Web選考の良かったと思う点

大学生_全体（就職志望者・就職活動経験者/自由回答） ※大学院生除く

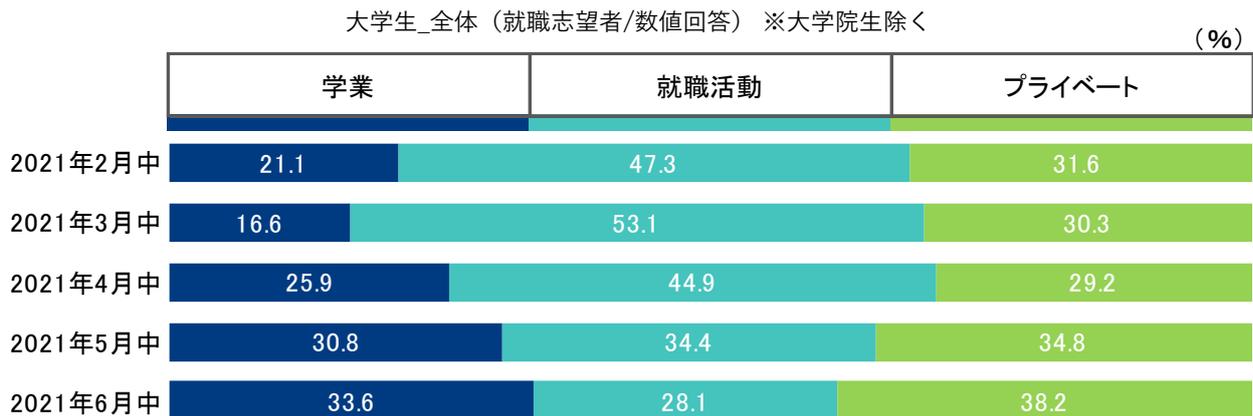
コメント	地域	文理・性別
交通費がかからないため、多くの企業に応募できた。	関東	文系女性
交通費がかからないこと、移動時間もかからないので講義を欠席せずに済んだこと。	関東	文系女性
対面であつたら受けなかったであろう企業でも気軽に受けることができ、そういう意味で選択肢は増えたのではないかと思う。	関東	文系男性
交通費など対面に比べて費用がかからないので、コロナでバイトもなくなった身としては、非常に経済面でありがたかった。	関東	理系女性
やはり県外の企業へも交通費や時間を考えず選考に参加できることです。従前どおりの環境だったら、交通費が多額になることから県外の企業を積極的に受けることはしなかったと思います。また、面接時間のギリギリまで(対面に比べて)準備ができることも良いです。	中部	文系男性
バイトができなくてお金が無かったので、交通費や宿泊費、食費が削減できて助かりました。	近畿	文系女性
地元から離れている学生も気軽に地元企業の説明会に参加できる点と、興味がないと思ったらすぐにフェードアウトできる点。	近畿	文系女性
移動時間とお金がかからないので、選考を受けるか迷っている企業にも積極的に挑戦することが出来たところ。	中国・四国	文系女性
交通費と宿泊費がおさえられ、受けられる企業数も増えた。県外の企業を多く受けている私にとっては利点であった。	中国・四国	文系女性
交通費などの費用がかからない点。わざわざの説明会や全ての面接で地方から東京に行く手間が省けたので、本社が東京の会社でもあまり気にせず受けることができ、結果的にその会社に内定を承諾することになった。	中国・四国	文系男性
交通費がかからないため、お金で断念することなく、自分の気がすむまで面接を受けることができた。	九州	理系女性

V. 「学業」「就職活動」「プライベート」時間の割合

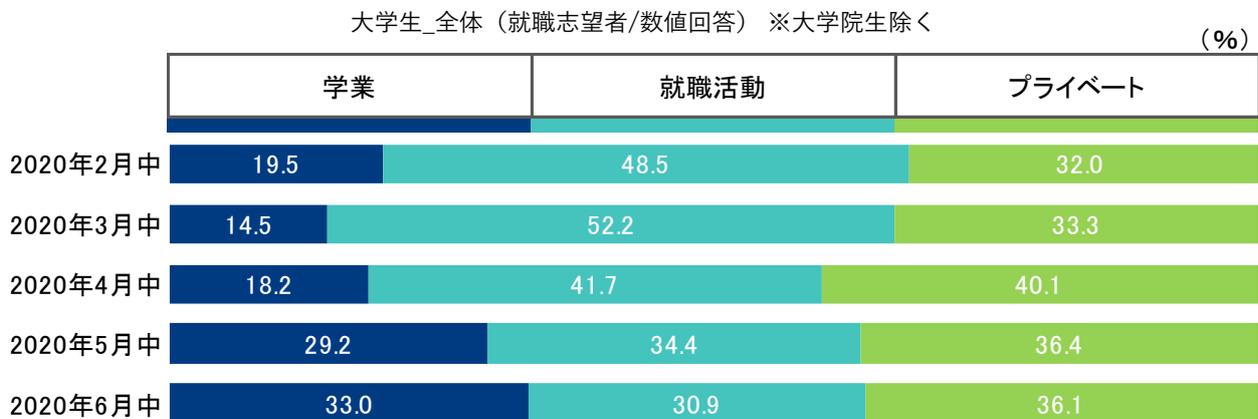
「学業」の時間の割合は、いずれの月も2022年卒が一番高い

- ・各月の「学業」「就職活動」「プライベート」時間の割合を見ると、22年卒は「学業」の割合がいずれの月も21年卒・20年卒と比べて高い。
- ・22年卒・21年卒・20年卒ともに、3月が「就職活動」の割合が一番高い。

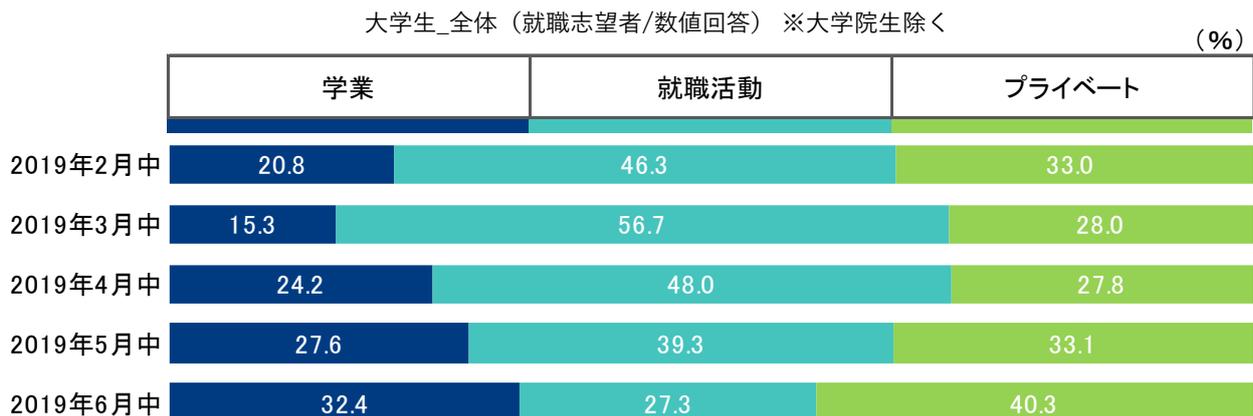
各月の「学業」「就職活動」「プライベート」時間の割合（2022年卒）



各月の「学業」「就職活動」「プライベート」時間の割合（2021年卒）



各月の「学業」「就職活動」「プライベート」時間の割合（2020年卒）



(参考) 6月12日までの各活動実施状況 (地域別)

6月12日までの各活動実施状況 (地域別)

大学生_全体 (就職志望者・就職活動経験者/複数回答) ※大学院生除く

活動実施率(%)	2022年卒							
	関東(n=642)		中部(n=251)		近畿(n=281)		その他(n=329)	
就職に関する情報を収集した	91.5%	(4.4)	87.2%	(0.2)	89.1%	(0.5)	86.3%	(-4.8)
OB・OGなど社会人の先輩を訪問した	28.6%	(0.3)	11.3%	(-6.4)	22.3%	(3.8)	15.5%	(1.7)
リクレーターから接触された	32.1%	(2.0)	21.7%	(-4.4)	32.6%	(2.9)	18.5%	(2.6)
就職情報サイトに登録した	78.5%	(6.6)	71.4%	(0.2)	74.3%	(-2.0)	67.5%	(-4.6)
企業にエントリー(資料・情報の請求)をした	72.9%	(1.7)	68.6%	(6.6)	68.6%	(-1.2)	64.1%	(-5.0)
人材紹介会社を利用した	24.0%	(-0.6)	11.5%	(-2.4)	25.0%	(1.2)	11.9%	(-7.1)
大学で開催される就職ガイダンスに参加した	60.6%	(3.4)	53.5%	(1.1)	54.2%	(-8.1)	50.9%	(-7.4)
大学や先生などの推薦で各種団体等に応募した	9.2%	(-0.9)	5.1%	(0.2)	7.8%	(0.4)	4.4%	(-2.3)
大学で開催される合同説明会・セミナーに参加した	53.7%	(4.9)	51.1%	(2.6)	55.7%	(3.7)	49.3%	(7.2)
大学以外で開催される合同説明会・セミナーに参加した	63.3%	(10.2)	60.4%	(7.0)	65.7%	(3.1)	57.4%	(2.6)
個別企業の説明会・セミナーのうち、 対面(社内、会場など)で開催されるものに参加した	43.2%	(-9.8)	45.7%	(-2.4)	52.0%	(-6.6)	43.1%	(-7.5)
個別企業の説明会・セミナーのうち、 Web上で開催されるものに参加した	67.4%	(12.7)	62.6%	(19.4)	69.7%	(6.5)	56.0%	(0.0)
逆求人やスカウトなど、 ダイレクトリクルーティングサービスを利用した	33.9%	-	28.1%	-	32.9%	-	24.9%	-
適性検査や筆記試験を受けた	90.2%	(2.9)	87.4%	(7.7)	87.4%	(-0.1)	85.5%	(-1.1)
エントリーシートなどの書類を提出した	90.4%	(2.3)	86.8%	(4.6)	90.2%	(4.1)	84.3%	(0.7)
面接など対面での選考を受けた	77.3%	(3.2)	73.2%	(-5.7)	71.4%	(-4.6)	70.4%	(2.2)
Web上での面接を受けた	88.5%	(14.3)	77.3%	(15.2)	83.7%	(6.4)	77.5%	(16.8)
企業に自分で撮影した動画を提出した	44.2%	(9.0)	27.4%	(2.4)	43.4%	(16.3)	25.3%	(7.0)
インターンシップに参加した	71.8%	(2.1)	70.4%	(2.8)	70.2%	(-3.7)	60.2%	(-9.1)
企業研究(業種・職種研究を含む)をした	79.0%	(7.5)	71.6%	(7.5)	72.4%	(-0.6)	69.2%	(-1.5)
自己分析をした	80.6%	(4.6)	73.5%	(2.3)	80.0%	(3.0)	73.8%	(0.3)
スーツなど、就職活動に必要なものを購入した	67.8%	(-0.8)	66.8%	(0.0)	67.5%	(2.0)	61.8%	(-5.9)
キャリアセンターに相談した	47.2%	(3.3)	51.0%	(3.9)	48.1%	(-0.8)	43.5%	(8.2)

※ () 内は2021年卒との差

※ () 内の単位はポイント

※ 「その他」を除く。

※ 「逆求人やスカウトなど、ダイレクトリクルーティングサービスを利用した」は、2022年卒3月より聴取。

調査概要

調査目的 | 大学生・大学院生における就職活動の実態を把握する
調査方法 | インターネット調査
集計方法 | 大学生については、性別、専攻、所属大学の設置主体を基に、実際の母集団の構成比に近づけるよう、文部科学省「学校基本調査」の数値を参照し、ウェイトバック集計を行っている

2022年卒：2021年6月12日時点

調査対象 | 2022年卒業予定の大学生および大学院生に対して、『リクナビ2022』（※）にて調査モニターを募集し、モニターに登録した学生8,736人（内訳：大学生7,261人/大学院生1,475人）
調査期間 | 2021年6月12日～6月17日
集計対象 | 大学生 1,727人/大学院生 557人
※リクナビ：株式会社リクルートが運営している、就職活動を支援するサイト
<https://job.rikunabi.com/2022/>

2021年卒：2020年6月12日時点

調査対象 | 2021年卒業予定の大学生および大学院生に対して、『リクナビ2021』にて調査モニターを募集し、モニターに登録した学生4,198人（内訳：大学生3,325人/大学院生873人）
調査期間 | 2020年6月12日～6月19日
集計対象 | 大学生 915人/大学院生 377人

2020年卒：2019年7月1日時点

調査対象 | 2020年卒業予定の大学生および大学院生に対して、『リクナビ2020』にて調査モニターを募集し、モニターに登録した学生6,395人（内訳：大学生5,267人/大学院生1,128人）
調査期間 | 2019年7月1日～7月8日
集計対象 | 大学生 1,584人/大学院生 503人

モニターの抽出条件

「卒業後の志望進路（志望する進路の全て）」の回答状況を基に、次の条件で対象を抽出

本調査対象 = 「就職意向者（就職志望者 + 志望進路未決定者）」（※モニター募集時）

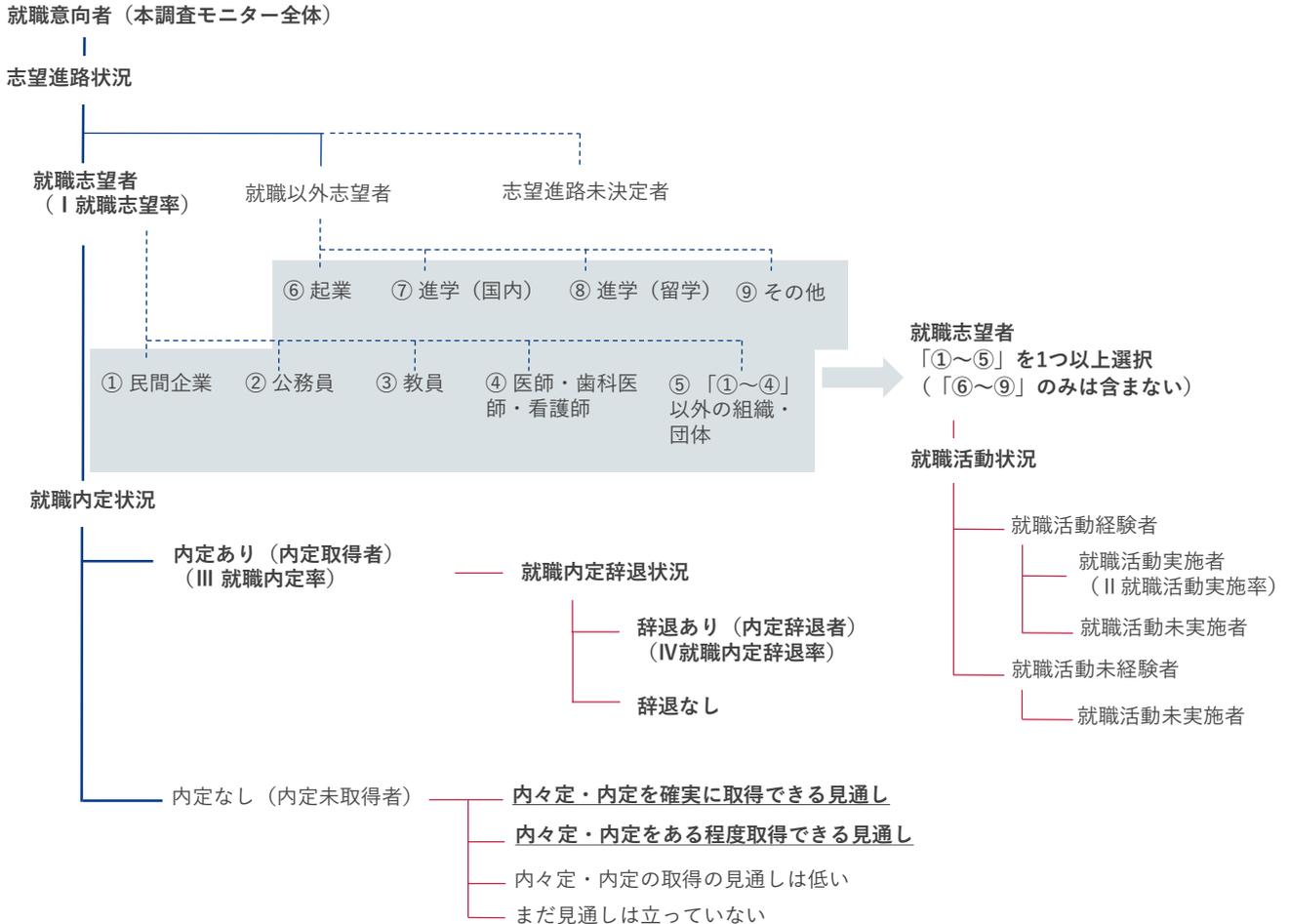
本調査対象については、以下を除いた

- 就職志望者のうち「②公務員」「③教員」「④医師・歯科医師・看護師」のみ選択した者
- 就職以外「⑥起業」「⑦進学(国内)」「⑧進学(留学)」「⑨その他」のみ選択した者

調査結果を見る際の注意点

- 「内定率」は内定・内々定を含む。政府の要請における正式な内定日は10月1日以降である
- %を表示する際に小数点第2位で四捨五入しているため、%の合計が100%と一致しない場合がある
- 「前回差」「前年同月差」の単位は、「ポイント」
- 本資料での「前年」とは、「2021年卒」を示す

就職志望者から見た内定状況の構図



<各率の算出方法>

I 就職志望率	=	就職志望人数 ÷ 就職意向人数
II 就職活動実施率	=	就職活動実施人数 ÷ 就職志望人数
III 就職内定率	=	就職内定取得人数 ÷ 就職志望人数
IV 就職内定辞退率	=	就職内定辞退人数 ÷ 就職内定取得人数

<用語の定義>

● 就職意向者	=	当初 (本調査モニター募集時) の志望進路が「就職」および「未決定」者
● 就職志望者	=	当月、就職を志望している者
● 就職活動実施者	=	当月、就職活動を実施している者 (※)
● 就職活動経験者	=	当月までに就職活動の経験がある者
● 就職内定取得者	=	当月までに内定 (内々定) の取得経験がある者
● 就職内定未取得者	=	当月までに内定 (内々定) の取得経験がない者
● 進路確定期者	=	当月、進路が確定している者
		進路確定率 = 進路確定人数 ÷ 就職意向人数
● 就職内定辞退者	=	当月までに内定 (内々定) の辞退経験がある者

<<地域区分の内訳>>

○ 関東	=	東京都、千葉県、神奈川県、埼玉県、茨城県、栃木県、群馬県
○ 中部	=	静岡県、愛知県、岐阜県、山梨県、長野県、新潟県、富山県、石川県、福井県
○ 近畿	=	京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、三重県、滋賀県
○ その他地域	=	「関東」「中部」「近畿」以外の地域

※就職活動実施状況について、「している」「していない」の選択肢のうち、「している」と回答した者